



法人企業景気予測調査

令和7年10～12月期調査

—長崎県の概要—

令和7年12月11日

財務省 福岡財務支局
長崎財務事務所

<お問い合わせ先>

財務省 福岡財務支局 長崎財務事務所 財務課

電話 095-827-7095

<ホームページ>

<https://lfb.mof.go.jp/fukuoka/html/nagasaki/>

調査要領

1. 調査の目的と根拠

この調査は、我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回(5、8、11、2月)実施することとなっている。

2. 調査対象

県内に所在する資本金、出資金又は基金(以下、「資本金」という。)1千万円以上(ただし、電気・ガス・水道業及び金融業、保険業は資本金1億円以上)の法人。なお、毎年4~6ヶ月期調査開始前に調査対象企業の抽出替えを実施。

3. 調査時点 : 令和7年11月15日

4. 調査対象期間

(1) 判断調査

令和7年10~12月期又は12月末(現状判断)、令和8年1~3月期又は3月末(見通し)、令和8年4~6月期又は6月末(見通し)

(2) 計数調査

令和7年度は見込み

5. 対象企業の内訳及び調査票の回収状況

(調査対象企業・回収率)

区分	全産業			製造業			非製造業		
	対象企業数	回答企業数	回収率	対象企業数	回答企業数	回収率	対象企業数	回答企業数	回収率
全規模	108	107	99.1%	30	30	100.0%	78	77	98.7%
大企業	11	11	100.0%	5	5	100.0%	6	6	100.0%
中堅企業	40	40	100.0%	11	11	100.0%	29	29	100.0%
中小企業	57	56	98.2%	14	14	100.0%	43	42	97.7%

(注) 大企業 : 資本金10億円以上
中堅企業 : 資本金1億円以上10億円未満
中小企業 : 資本金1千万円以上1億円未満

6. 調査方法

対象企業に調査票を郵送、または、オンラインにより自計記入を求める方法によった。

7. 調査項目の分析方法

(1) 分析方法は、原則としてBSI(単位:%ポイント)による。BSIとは、ビジネス・サーベイ・インデックスの略称で、前期と比較した「上昇」又は「下降」等の変化方向別の回答数の構成比から、先行きの経済動向を予測する方法である。(BSI=「上昇」等と回答した企業の構成比-「下降」等と回答した企業の構成比)

(2) 回答企業数は、調査項目によっては該当しないものもあり一致しない。

(例)「景況判断」の場合、
前期と比べて、

「上昇」と回答した企業の構成比 : 30.0%
「不变」と回答した企業の構成比 : 40.0%
「下降」と回答した企業の構成比 : 20.0%
「不明」と回答した企業の構成比 : 10.0% の場合

$BSI = 30.0 - 20.0 = 10.0\text{ポイント} \Rightarrow 10.0\text{ポイントの「上昇」超}$

— 景況の現状判断、全産業で8期ぶりの「上昇」超へ —

➤ 企業の景況判断BSI(全産業)

【現状判断】	令和7年10～12月期	1.9 (前期▲2.8)	製造業は、「食料品」、「非鉄金属」等で「下降」超(▲10.0) 非製造業は、「運輸、郵便」、「宿泊、飲食サービス」等で「上昇」超(6.5)
	令和8年1～3月期	2.8	全産業で引き続き「上昇」超
【先行き見通し】	令和8年4～6月期	2.8	全産業で引き続き「上昇」超

➤ 従業員数判断BSI(全産業)

【現状判断】	令和7年12月末時点	43.0	「小売」、「建設」等で「不足気味」超
--------	------------	------	--------------------

➤ 企業収益、設備投資(全産業、令和7年度見込み)

売上高	前年比	4.2%	「情報通信機械器具」、「その他の輸送用機械器具」等で増収
経常利益	前年比	▲13.3%	「非鉄金属」、「食料品」等で減益
設備投資	前年比	▲2.4%	「非鉄金属」、「生産用機械器具」等で減少

(注)1:売上高、経常利益は、電気・ガス・水道業、金融業、保険業除く。

2:設備投資は、ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く。

〔 調査時点 : 令和7年11月15日
回収率 : 99.1% (107社／108社)
次回調査結果の公表は3月11日予定 〕

1. 企業の景況（判断調査）

— 全産業の現状判断は「上昇」超に転じる —

【現状判断】

令和7年10～12月期は、全産業で「上昇」超に転じている。

業種別にみると、製造業は引き続き「下降」超となっており、非製造業は「上昇」超となっている。

規模別にみると、大企業、中小企業は「上昇」超となっており、中堅企業は引き続き「下降」超となっている。

【先行き見通し】

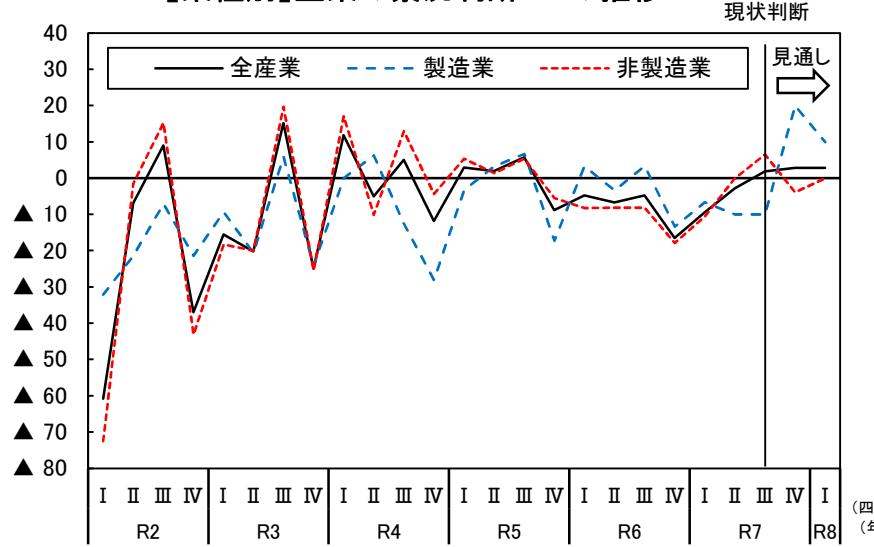
全産業でみると、令和8年1～3月期は引き続き「上昇」超で推移する見通しがなっている。

（前四半期と比較して「上昇」－「下降」の社数構成比）
(BSI: %ポイント)

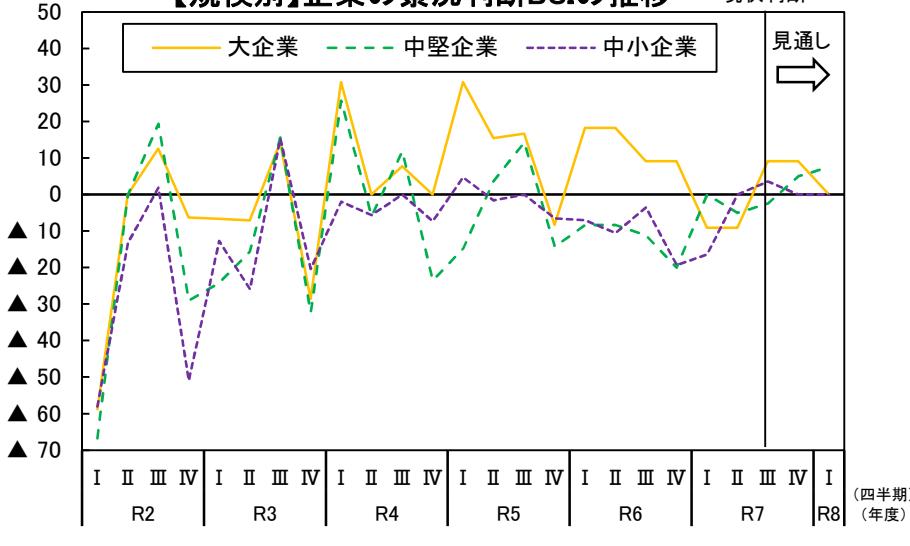
区分		令和7年7～9月 (前回調査)	令和7年10～12月 (現状判断)	令和8年1～3月 (見通し)	令和8年4～6月 (見通し)
全産業		▲2.8	(2.8)	(3.7)	2.8
業種別	製造業	▲ 10.0	(▲3.3) ▲ 10.0	(10.0) 20.0	10.0
	非製造業	0.0	(5.2) 6.5	(1.3) ▲ 3.9	0.0
規模別	大企業	▲ 9.1	(0.0) 9.1	(9.1) 9.1	0.0
	中堅企業	▲ 5.0	(0.0) ▲ 2.5	(5.0) 5.0	7.5
	中小企業	0.0	(5.4) 3.6	(1.8) 0.0	0.0

（注）（ ）は前回調査時の見通し

【業種別】企業の景況判断BSIの推移



【規模別】企業の景況判断BSIの推移



2. 従業員数判断（判断調査）

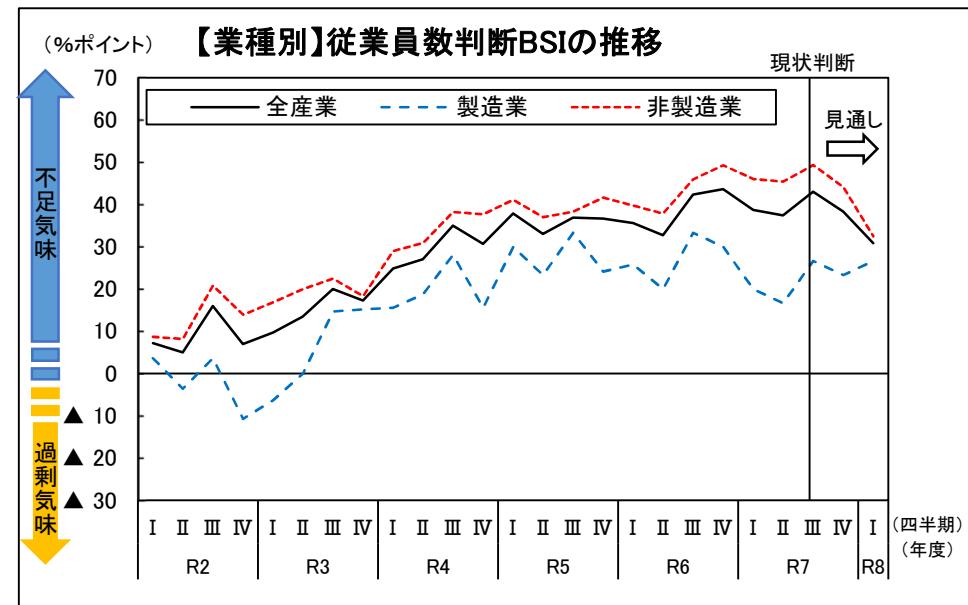
一 全産業の現状判断は引き続き「不足気味」超

【現状判断】

令和7年12月末時点は、全産業で引き続き「不足気味」超となっている。業種別にみると、製造業、非製造業ともに引き続き「不足気味」超となっている。規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも引き続き「不足気味」超となっている。

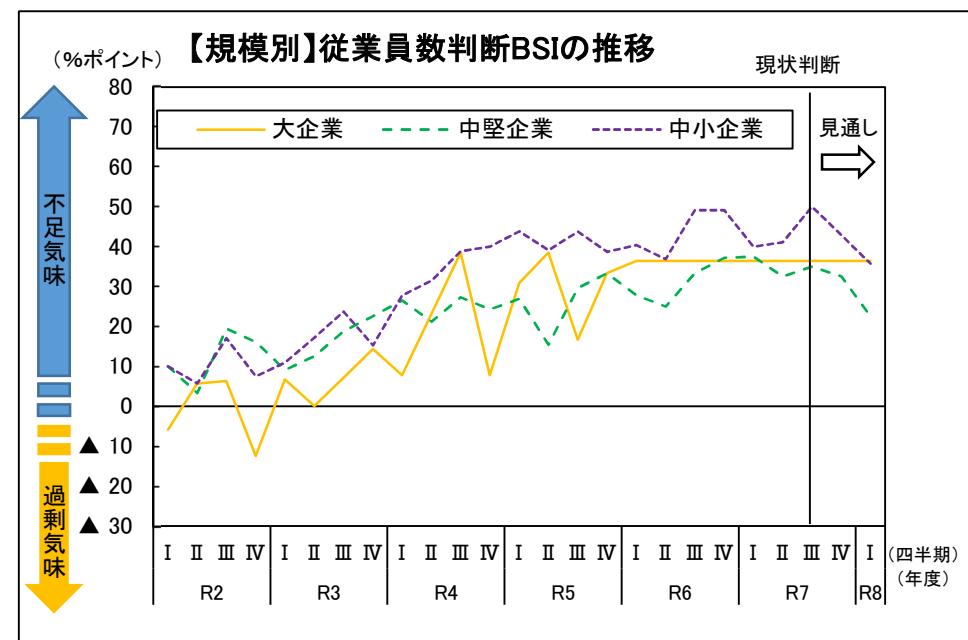
【先行き見通し】

全産業でみると、引き続き「不足気味」超で推移する見通しとなっている。



		(期末判断「不足気味」-「過剰気味」の社数構成比) (BSI: %ポイント)			
区分		令和7年9月末 (前回調査)	令和7年12月末 (現状判断)	令和8年3月末 (見通し)	令和8年6月末 (見通し)
全産業		37.4	(35.5)	(34.6)	30.8
業種別	製造業	16.7	(20.0)	(23.3)	26.7
	非製造業	45.5	(41.6)	(39.0)	32.5
規模別	大企業	36.4	(36.4)	(45.5)	36.4
	中堅企業	32.5	(30.0)	(30.0)	22.5
	中小企業	41.1	(39.3)	(35.7)	35.7

(注) ()は前回調査時の見通し



3. 企業収益・設備投資（計数調査）

— 令和7年度の企業収益は増収・減益見込み —

【売上高】

令和7年度の売上高について、製造業は前年比5.2%の増収見込み、非製造業は同1.9%の増収見込みとなっており、全産業では同4.2%の増収見込みとなっている。

【経常利益】

令和7年度の経常利益について、製造業は前年比15.5%の減益見込み、非製造業は同9.5%の増益見込みとなっており、全産業では同13.3%の減益見込みとなっている。

区分	全産業	業種別		規模別			(前年度比増減率: %)
		製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業	
売上高	(2.4) 4.2	(2.4) 5.2	(2.4) 1.9	(1.4) 2.8	(0.0) ▲ 0.3	(6.7) 11.4	
経常利益	(▲17.3) ▲ 13.3	(▲19.8) ▲ 15.5	(3.3) 9.5	(2.1) 5.9	(▲66.4) ▲ 61.9	(10.8) 0.9	

(注) 1. 電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く
2. ()は前回調査結果

— 令和7年度の設備投資は減少見込み —

【設備投資】

令和7年度の設備投資について、製造業は前年比16.4%の減少見込み、非製造業は同41.9%の増加見込みとなっており、全産業では同2.4%の減少見込みとなっている。

区分	全産業	業種別		規模別			(前年度比増減率: %)
		製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業	
設備投資	(9.7) ▲ 2.4	(▲11.4) ▲ 16.4	(76.6) 41.9	(60.2) 35.4	(▲31.3) ▲ 35.9	(30.5) 33.1	

(注) 1. ソフトウェア投資額を含む、土地購入額を除く
2. ()は前回調査結果

【今年度における設備投資のスタンス】

項目	全産業		製造業		非製造業		(回答社数構成比: %)
	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	
生産(販売)能力の拡大	③ 49.3	③ 47.4	③ 57.7	① 72.0	44.4	35.3	
製(商)品・サービスの質的向上	40.8	44.7	30.8	32.0	③ 46.7	③ 51.0	
情報化への対応	33.8	27.6	23.1	12.0	40.0	35.3	
省力化合理化	① 60.6	② 55.3	① 61.5	③ 56.0	① 60.0	② 54.9	
環境対策	7.0	5.3	0.0	4.0	11.1	5.9	
海外投資	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
研究開発	7.0	1.3	15.4	4.0	2.2	0.0	
新事業への進出	11.3	6.6	11.5	4.0	11.1	7.8	
維持更新	② 57.7	① 71.1	① 61.5	② 68.0	② 55.6	① 72.5	
その他	2.8	3.9	3.8	8.0	2.2	2.0	

(注) 1. 10項目中1社3項目以内の複数回答
2. ○印の数字は各項目の順位

4. その他参考資料

(1) 景況判断の決定要因

(回答社数構成比:%)

	令和7年7~9月 (前回判断)	令和7年10~12月 (現状判断)	
「上昇」要因	国内需要(売上)	① 72.7	①83.3
	海外需要(売上)	9.1	③33.3
	販売価格	② 45.5	②50.0
	仕入価格	③ 18.2	③33.3
	仕入以外のコスト	0.0	0.0
	資金繰り・資金調達	0.0	0.0
	株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0
	為替レート	0.0	0.0
	税制・会計制度等	0.0	0.0
	その他	9.1	0.0
「下降」要因	国内需要(売上)	① 71.4	①63.6
	海外需要(売上)	7.1	③18.2
	販売価格	28.6	③18.2
	仕入価格	② 64.3	③18.2
	仕入以外のコスト	③ 42.9	②45.5
	資金繰り・資金調達	28.6	③18.2
	株式・不動産等の資産価格	0.0	0.0
	為替レート	0.0	0.0
	税制・会計制度等	0.0	0.0
	その他	7.1	③18.2

(注)1. 金融業、保険業を除く

2. 10項目中1社3項目以内の複数回答

3. ○印の数字は各項目の順位

(2) 今年度における経常利益の要因

(回答社数構成比:%)

項目	全産業		製造業		非製造業	
	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度
販売数量・提供数量	① 74.0	①63.3	① 91.7	①82.6	① 65.3	②55.4
販売単価・提供単価	③ 47.9	③54.4	② 50.0	②65.2	③ 46.9	③50.0
人件費	② 52.1	②57.0	② 50.0	③47.8	② 53.1	①60.7
資源・エネルギー価格	31.5	27.8	29.2	17.4	32.7	32.1
人件費及び資源・エネルギー価格以外の価格	13.7	26.6	12.5	13.0	14.3	32.1
為替相場	13.7	8.9	20.8	21.7	10.2	3.6
受取利息及び受取配当金	6.8	5.1	0.0	0.0	10.2	7.1
支払利息	11.0	10.1	0.0	0.0	16.3	14.3
資産の償却・評価(債権償却を含む)	16.4	11.4	12.5	17.4	18.4	8.9
その他	2.7	5.1	4.2	4.3	2.0	5.4

(注) 1. 10項目中1社3項目以内の複数回答

2. ○印の数字は各項目の順位

(3) 生産・販売などのための設備BSI

(期末判断「不足」-「過大」の社数構成比)

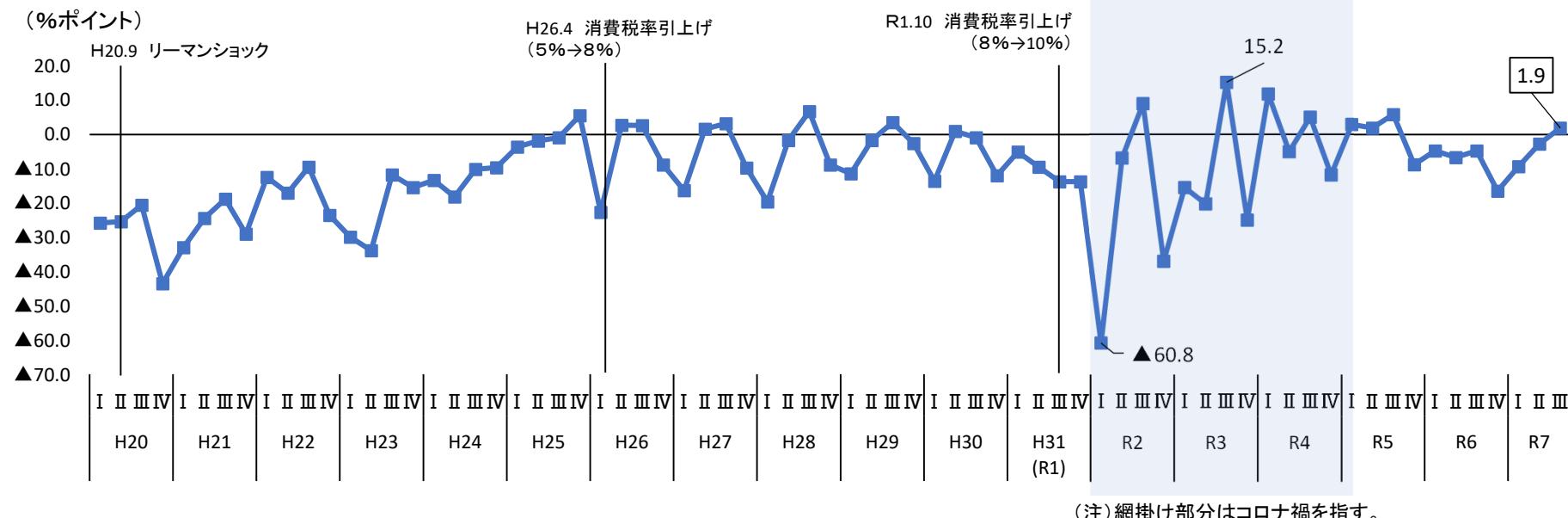
(BSI: %ポイント)

区分	令和7年9月末 (前回調査)	令和7年12月末 (現状判断)	令和8年3月末 (見通し)	令和8年6月末 (見通し)
全産業		(0.0)	(1.2)	
業種別	1.2	2.5	6.2	4.9
	0.0	0.0	4.0	8.0
規模別	1.8	(0.0)	(0.0)	
	0.0	0.0	0.0	10.0
	▲ 2.9	(▲ 2.9)	(0.0)	0.0
大企業		(2.9)	2.9	
中堅企業	▲ 2.9	▲ 2.9	2.9	0.0
中小企業	5.6	(2.8)	(2.8)	10.8
		8.1	10.8	8.1

(注) ()は前回調査時の見通し

4. その他参考資料

(4) 企業の景況判断BSIの推移



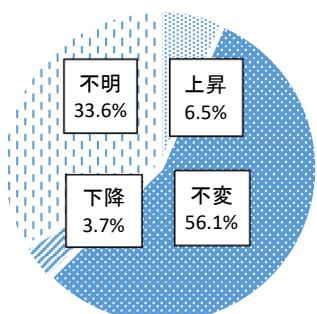
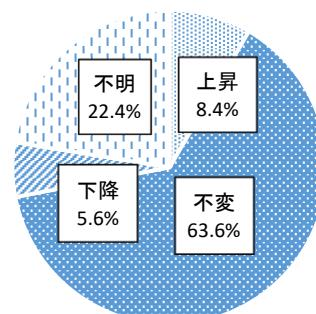
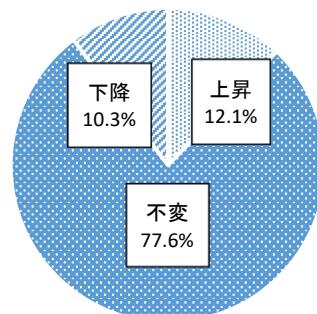
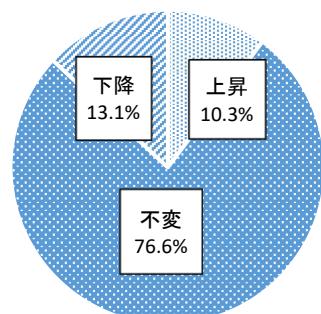
(5) 企業の景況判断構成比の推移

前回調査(7年7-9月) : ▲2.8

現状判断(7年10-12月) : 1.9

見通し(8年1-3月) : 2.8

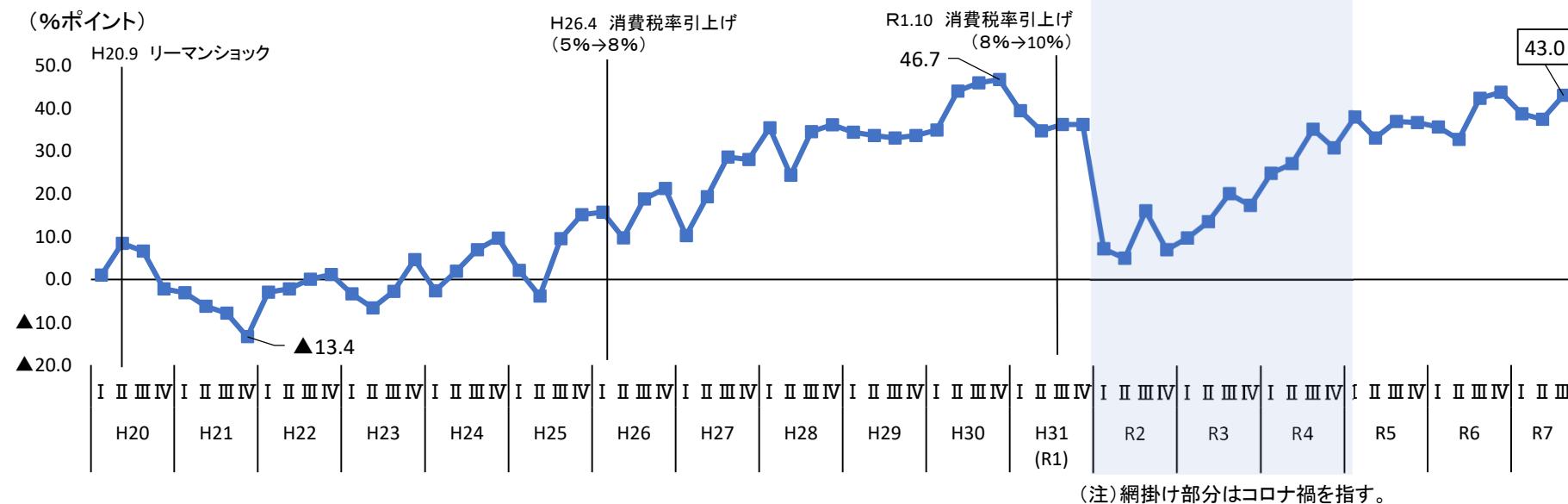
見通し(8年4-6月):2.8



(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合がある。

4. その他参考資料

(6) 従業員数判断BSIの推移



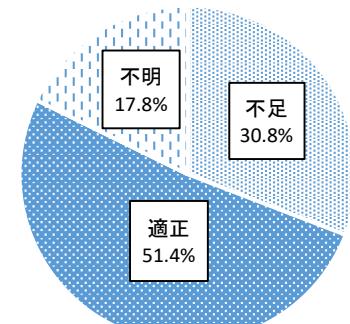
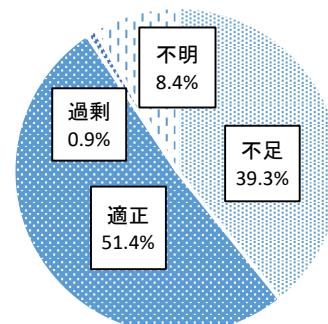
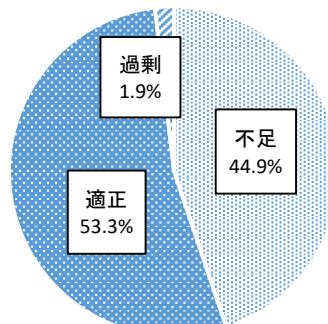
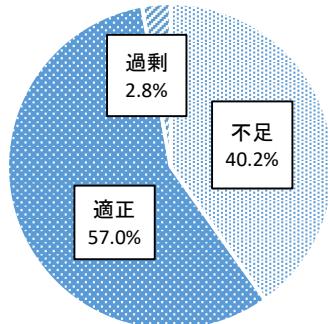
(7) 従業員数判断構成比の推移

前回調査(7年9月末):37.4

現状判断(7年12月末):43.0

見通し(8年3月末):38.3

見通し(8年6月末):30.8



(注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100とはならない場合がある。